

J.LEAGUE NEWS

Official News Letter

vol. **134**

2.Mar.2007



Will Be

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 **Jリーグ百年構想**



J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

KONAMI

AIDEM

HEIWA

GE Money

新キャッチフレーズ 「Will Be」を掲げて、 2007シーズンがスタート!

15年目を迎えるJリーグの、2007年シーズンがいよいよ幕を開けた。

今季、Jリーグが新たなキャッチフレーズとして発表した「Will Be」の下、J1、J2合わせて31のクラブが全国で熱い火花を散らし、「熱狂のスタジアム」を実現する。2月23日には、東京都内で2007 Jリーグプレスカンファレンスを開催し、全クラブの監督・代表の選手が新シーズンへの抱負を力強く語った。また、翌24日には、国立競技場で2007ゼロックス スーパーカップが行われ、ガンバ大阪が浦和レッズに4-0の勝利を収め、昨年の同大会の雪辱を果たした。

Network Partner



League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞

G大阪が4-0と快勝



2007 XEROX SUPER CUP



浦和レッズ（2006 Jリーグチャンピオン）とガンバ大阪（第86回天皇杯全日本サッカー選手権大会準優勝）という、昨年と同じカードとなった「2007ゼロックス スーパーカップ」は2月24日に国立競技場で行われ、G大阪が4-0と快勝して、この大会に初優勝を飾った。

ゼロックス スーパーカップは、前シーズンのJリーグチャンピオンと天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームが、Jリーグ開幕の1週間前に戦う試合。新しいJリーグのシーズン開幕を告げるイベントとして定着しており、今回が14回目の開催となった。昨季、浦和レッズがJリーグと天皇杯をともに制したため、天皇杯決勝で惜敗したガンバ大阪が出場資格を得た。

昨年の両者の公式試合における対戦成績は、浦和の3勝1分け。2冠の浦和、無冠のG大阪と明暗が分かれた。連覇へ、そして王座奪還へ、この名誉ある舞台上ライバルを倒し、それぞれの目標に向けた第一歩を踏み出す戦いは、明るい初春の日差しと冷たい風の中でのキックオフとなった。

ともに気合十分の立ち上がりだったが、前半半ばからG大阪が中盤を支配。31分にはMF遠藤保仁のパスを起点に、FWマグノアウベスが均衡を破った。さらに42分、MF二川孝広が見事なミドルシュートを突き刺し、前半を2点差で折り返す。G大阪の勢いは後半になっても衰えず、67分、85分と

マグノ アウベスが加点。終わってみれば、シュート数が浦和の3本に対し18本と、持ち前の攻撃的サッカーをいかに発揮して、昨年の雪辱を果たした。G大阪は優勝賞金として3000万円、浦和は準優勝チームの賞金2000万円を獲得した。

この大会で1試合に4得点を挙げたチームは過去になく、G大阪が初めて。同じく4点差の勝利も大会初。マグノ アウベスも大会史上初めて、ハットトリック(1試合に一人で3得点)を記録した選手として名を残すことになった。

G大阪にとっては、西野朗監督が「今日、

しっかりとフリーズ(凍結)し、3日(のJリーグ開幕戦)で解凍したい」と表現するほどの快勝。「これほどいいパフォーマンスは予想していなかった」「今日のような試合が毎回できれば」と、指揮官はこの日の試合ぶりの手応えをうかがわせる言葉を次々と口にした。

一方、数人の主力選手を負傷などで出場させることのできなかった浦和は、今季初めての90分間の実戦ということもあり、万全の状態ではなかったようだ。今季から浦和を率いるホルガー オジェック監督は「同じ状況でも、G大阪のほうが一步速かった。ボールを奪ってしっかり攻撃につなげていた。こういうことができている以上、勝って当然」と相手が上回っていたことを認めながら、「Jリーグ開幕戦では、改善したところを見せることができると信じている」と前を見据えた。



2007プレスカンファレンス開催

Jリーグは、新たなシーズン開幕が秒読み段階に入った2月23日、都内のホテルで「2007 Jリーグ プレスカンファレンス」を開催した。

第1部では、J1、J2の31クラブの監督登場とともに今季の各チームのスローガンが紹介された。続いて、ユニフォームに身を包んだ各チームの選手が1人ずつ、3月3日の開幕戦のカードごとに登場。双子の選手として知られる佐藤勇人(ジェフユナイテッド千葉)、佐藤寿人(サンフレッチェ広島)が、代表してインタビューを受けた。その後、鬼武健二 Jリーグチェアマンが Jリーグの中期目標を発表した。

会場を移しての第2部は、31クラブ、Jリーグ関連、特設ブースが設置され、監督や選手、広報担当者らがメディアの取材に対応し、資料の配布などチームをアピールした。

会場はメディア、スポンサーなど過去最高の900人近い来場者でにぎわい、開幕直前の熱気に包まれた。



鬼武チェアマンが中期目標発表 イレブンミリオン

鬼武健二 Jリーグチェアマンが発表した Jリーグの中期目標は、4年後の2010年シーズンに J1、J2、Jリーグヤマザキナビスコカップ等の公式試合の総入場者数を1100万人(イレブンミリオン)にしようというもの。昨年のそれは836万3963人。イレブンミリオンには約30パーセントの増加が必要となるが、鬼武チェアマンは「熱狂のスタジアムを一つでも多くつくりたい」と力強く抱負を語り、実現に向けた「個」の重要性とフェアプレーの実践を強調した。



J1、J2、入れ替え戦を全試合生中継 スカパー!

Jリーグは1月25日、(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズ(以下、スカパー!)とともに放送概要を発表した。2007年から2011年の5シーズンにわたり、日本国内のCS放送権を取得したスカパー!はJ1、J2、そしてJ1・J2入れ替え戦の全620試合をすべて生中継、それも547試合を自主制作という画期的な体制に「全社を挙げて取り組んでいく」(仁藤雅夫スカパー!代表取締役社長)。

「Jリーグの各クラブを中心とした地域貢献と、Jリーグ百年構想に深い敬意を抱いている」(仁藤社長)というスカパー!は、「クラブと密着した放送」(田中晃スカパー!執行役員常務 放送本部長)を目指す。例えば、試合のハーフタイムにはホームクラブを特集する企画コーナーを設け、クラブが地元で実施している活動や地域貢献の様子を発信する予定。鬼武健二 Jリーグチェアマンも、「アウェイの試合を観戦に行けない方も、リアルタイムで試合を見ることができる」と、全試合生放送のメリットをあげ、それがホームゲームでの入場者数増につながることに期待を寄せている。

2007シーズンを戦う

2007 Jリーグはディビジョン1 (J1)、ディビジョン2 (J2)とも3月3日に開幕。長く熱い戦いを続ける指揮官に今シーズンにかかる思いを聞いた。



J1

KASHIMA Antlers

クラブスローガン
FOOTBALL DREAM '07魂Spirits

監督の抱負
選手たちには、自分の役割をしっかりと果たし、最大限に能力を発揮して、創造性あふれるプレーを求めていく。対戦相手の長所を謙虚に受け止め、短所を突いていかななくてはならない。

オズワルドオリヴェイラ監督

J1

Red Diamonds

クラブスローガン
Sing out Together Heartily

監督の抱負
レッズは、Jリーグで今1位のチーム。今年もそれを維持し、AFCチャンピオンズリーグでもしっかりと戦い、12月のクラブワールドカップに出場する最初の日本のチームになりたい。

ホルガー・オジェック監督

J1

OMIYA Ardia

クラブスローガン
「シンカ」進化。真価。深化

監督の抱負
いい攻撃をするために、まずしっかりと組織されたフォーメーションを作り上げることが重要。昨年までのベースを基に、より「シンカ」したチーム作りをしていきたい。

ロバート監督

J1

JEF UNITED ICHIHARA CHIBA

クラブスローガン
WIN BY ALL !

監督の抱負
大事なのは、常に新しい選手が中心になっていかないとダメだということ。これまでのジェフのプレースタイルに変更はない。2007年は、ダイナミックで、魅力的な若いチームを目指す。

アマル・オシム監督

J1

KASHIWA Reysol

クラブスローガン
挑戦 進化し続けるタフネス

監督の抱負
今季の目標は「勝点45」。今季は何よりもまずJ1残留を勝ち取り、その上で、少しでも上の順位を目指す。昨年のJ2で頭角を現した24歳以下の若手選手たちのさらなるレベルアップを期待する。

石崎信弘監督

J1

F.C.TOKYO

クラブスローガン
It's Our Time ~青き疾風、赤い怒涛~

監督の抱負
新しいチャレンジをしたい。当然今回は「結果」を求められるが、選手とスタッフが一緒になって、やるからにはおもしろいサッカーをして、お客さんがFC東京の試合を味スタに観に来てくれるような試合を目指す。

原 博実監督

J1

KAWASAKI Frontale

クラブスローガン
One for Goal, Goal for One

監督の抱負
Jクラブがチャレンジできる3つの大会のタイトル。またクラブとして初の海外チャレンジとなるACLでは、まずは過去の日本のJクラブが果たせなかった1次リーグの突破を目指し、チーム一丸となる。

関塚 隆監督

J1

Yokohama F. Marinos

クラブスローガン
Scramble Attack

監督の抱負
2年連続無冠でシーズンを終えた現実を真摯に受け止め、いかにチームを復活させるかが大きなテーマ。「攻撃サッカー」を目指し、新生マリノスの第一歩を踏み出したい。

早野宏史監督

J1

YOKOHAMA FC

クラブスローガン
勝つために、ここに来た。

監督の抱負
すべてのチームに対して敬意を表し、「個」「組織」と「ベテラン」「若手」を融合させ、大胆かつ繊細なサッカーをし、すべては勝利のために戦いたい。

高木琢也監督

J1

VENTFORET KOFU

クラブスローガン
Decision & Doing ~決断 & 実行~

監督の抱負
「サッカーはエンターテインメント」これは私のサッカーにおける信念。そのためには、勝利をすることであり、フェアプレー精神を貫くことであり、何よりも私たち自身が楽しんでサッカーをすること。

大木 武監督

J1

Albirex NIIGATA

クラブスローガン
闘え！ 新潟

監督の抱負
攻守に積極的で、アグレッシブなプレーを。いつも論理的に考えてプレーをする。さらに、全力を尽くす、ベストを尽くす。最後に、試合を見ている方々に感動を与えるようなプレーをする。

鈴木 淳監督

J1

SHIMIZU S-PULSE

クラブスローガン
かける想い。

監督の抱負
今季は「勝負の年」。実力的にも順位的にも安定した成績を残してトップ集団の仲間入りをし、また選手個人個人がチーム内外の戦いに打ち勝ち、勝負にこだわる。

長谷川健太監督

J1

Júbilo IWATA

クラブスローガン
[VAMOS contigo] (ヴァーモス・コンチーゴ)

監督の抱負
守備では、仕掛け相手ボールを奪いボール支配率を高め、攻撃では積極的に突破を図る。ジュビロの原点である人もボールも動くアクションサッカーの質を高める。

アジウソン監督

J1

NAGOYA Grampus EIGHT

クラブスローガン
前線へ。その先へ。

監督の抱負
サッカーの質を上げ、サポーターを魅了するようなクリエイティブなサッカーをする。「Build Up」、「Possession Play」、「テンポの使い分け」をさらにレベルアップする。

フェルフォオーゼン監督

J1



GAMBA
OSAKA

クラブスローガン
超攻撃

監督の抱負
昨年レズの引き立て役だったが、「打倒レズ」はもちろんのこと、力をつけて上位に名を連ねてくる他チームと常に戦えるチーム力を備えてシーズンを戦い抜きたい。タイトルを奪還を目指す。



西野 朗監督

J1



VISSEL

クラブスローガン
トモニイコウ。
We walk together forever

監督の抱負
昨シーズンの4-3-3システムを基本とし、戦い方、相手によって臨機応変にシステムを変更しながら戦う。目標は一けたの順位(9位以内)。さらにトップ5入りという野望を持って戦う。



松田 浩監督

J1



SANFRECCE
HIROSHIMA FC

クラブスローガン
Der Beste Spieler ist die Mannschaft.

監督の抱負
攻撃的なサッカーで勝利を目指す！
すべてはチームのために



ペトロヴィッチ監督

J1



TRINITA
FC OITA

クラブスローガン
Challenge & Competition

監督の抱負
6位以内を目指す。大分のスタイルは、若い選手が成長していかなければならない。3年計画でタイトルをとれるようなチームを作る。今年も「攻撃的サッカー」。全員が常に積極的に攻撃をしかける。



シヤマスル監督

J2

J2



Consadole
SAPPORO

クラブスローガン
Power to 1

監督の抱負
スタッフ、選手、サポーターがともに力を合わせて全力でJ1昇格を達成したい。そのために勝利を目指すメンタリティーをチームに植えつけていきたい。



三浦俊也監督

J2



VEGALTA
SENDAI

クラブスローガン
新仙走破
そして進化。

監督の抱負
「Challenge to Change」自分自身の持っている能力を見直し、最大限に発揮する努力をする。そしてチームメートの能力と可能性を引き出すことで、チームとしても進化をする。



望月達也監督

J2



Montedio
YAMAGATA

クラブスローガン
リスタート
再創生

監督の抱負
1.守備でゲームをコントロールする
2.常にゴールを目指す攻撃
3.攻守のバランスを保つ



樋口靖洋監督

J2



FC MITO
Hollyhock
IBARAKI

クラブスローガン
Believe in myself
あきらめない

監督の抱負
今まで積み重ねてきた事をベースに、どんな状況においても最後まであきらめず一丸となって戦うチームを目指し、サポーターの皆様にも感動を与えられるようなサッカーをしたい。



前田秀樹監督

J2



THESPA
KUSATSU

クラブスローガン
進め

監督の抱負
まず失点を減らす事が今シーズンの最大の課題。守だけの戦いにならないよう、ボールを失わない攻撃を目指す。



植木繁晴監督

J2



Verdy
FC NIPPON

クラブスローガン
全緑疾走！

監督の抱負
今年は何んかのことであってもJ1へ復帰したい。経験豊富な選手がチームに加ったことで、最後まであきらめず、勝利を求め続ける集団へとチームは変わりつつある。



ラモス瑠偉監督

J2



Bellmore

クラブスローガン
蹴志 Best Mind

監督の抱負
紙一重の差が勝敗を分ける勝負の世界。その紙一重を乗り越えられるチームへ。リバウンド・メンタリティーとコミュニケーション、そして一人一人が「感じて動く」ことがキーワード。



菅野将晃監督

J2



KYOTO SANGA F.C.

クラブスローガン
進化。
YES SANGA. WIN

監督の抱負
昨年は失点が多かったので守備の強化に重点をおく。いろいろな要素のクオリティーをあげ、1年でのJ1復帰を目指す。



美濃部直彦監督

J2



Cerezo
OSAKA

クラブスローガン
猛進

監督の抱負
チーム全員の守備の意識を高め、全員が献身的に動くことで、失点を少なくする。攻撃では、全員が動く躍動感あふれるサッカーを。J2を甘く見ることなく、チャレンジャーであることを忘れずに戦う。



都並敏史監督

J2



TOKUSHIMA
VORTIS

クラブスローガン
Re・ヴォルティス
一再生への決意

監督の抱負
攻撃においては常にボールを“前”へ送る事。守備においては“組織的”かつ自分たちから仕掛けるボールを奪う。常に先手を取る。さらに、攻守の切り替えの“質”を追求する。



今井雅隆監督

J2



EHIME FC

クラブスローガン
Action & Moving

監督の抱負
選手全員が積極的に動いてゲームに参加し、攻守ともに主導権となるサッカーを目指す。今年も最後まで走りまくるひたむきなプレーを目指す。



望月一仁監督

J2



Avispa
FUKUOKA

クラブスローガン
SUFFER FOR SUCCESS!

監督の抱負
必ずJ1復帰を果たすために、昨年の悔しさを忘れず、厳しい練習に耐え、苦しみを乗り越えた時、最後に勝ち抜くことができる。日ごろの練習と目の前の試合に集中していきたい。



リトバルスキー監督


J2



sagantosu

クラブスローガン
夢必翔 (ゆめひっしょう)

監督の抱負
強くなるために必要なことを分析し努力する。サガン鳥栖が成長するためには、皆の心をひとつにすることが必要。



岸野靖之監督

日本型育成システムの構築を目指して

日本サッカー協会の第2種登録(高校生年代)の選手たちが中心となるJユース サハラカップは、Jリーグがスタートした翌年の1994年に始まり、昨年の大会で14回目の開催となった。現在の日本代表選手、あるいはJリーグのトップチームで活躍する多くの選手が、この大会を経験して成長した、ユース年代の登竜門ともいうべき大会。選手育成に携わる指導者の方々に、昨年の大会を振り返ってもらった。

出席者

山下則之	Jリーグ技術委員長
福井 哲	F C東京U-18育成部部长
森山佳郎	サンフレッチェ広島F.Cユース監督
上野山信行(進行)	ガンバ大阪育成・普及部部长

育成と結果追求のバランス

上野山 大会優勝を飾ったサンフレッチェ広島から森山さん、広島と決勝を争ったFC東京から福井さんに来ていただきました。Jクラブの下部組織は、個人の育成という大切な役割がありますが、大会参加にあたり、どのようなチームづくりを考えたのですか。

森山 普段の練習では個人の能力を伸ばすことに重きを置いています。公式試合ではほとんど勝ちにこだわっていくというスタンスで臨みました。勝ち進んで高いレベルの試合を経験させることも、選手の成長を促すことになりまますから。次第に集中力も高まり、勝ちたいという意識が生まれ、チームが一つになって戦えました。



森山佳郎氏

かすために、決勝トーナメントに入って2トップにしました。技術的にも、状況に応じたプレーができるようになってきました。

福井 個を育成するという意味で、人の配置を変え、さまざまなポジションを経験させましたが、戦い方は予選リーグから首尾一貫して変わりませんでした。

上野山 そういった変更によって、選手たちがストレスを感じるようなことは。

森山 2トップにして各選手の役割がより明確になり、チームとしても戦い方がはっきりして、逆にストレスがなくなりました。

福井 チームの戦い方は変えませんでした。相手によって押さえるべき重要なスペースは変わってくるので、そこは少し変化しました。しかし、戦術の変化に伴うチームとしての共通理解は、予選リーグに関しては理解不足からストレスがあったかもしれませんが、ただ、予選リーグで厳しい相手と戦えたことによる自信から、そのストレスも勝点とともに解消していったと思われまます。

上野山 変化に順応できる選手がいるということですね。では、個の育

成という観点で、大会で見られたいくつかのポイントについてうかがいます。まず、キックはいかがでしょう。足下のパスの意識は非常に良くなっているが、スペースへのパスの種類、スピードなどは、まだ改善の余地があるように思いますが。

森山 ミドル、ロングパスでは戦術的な要素も含まれますが、本当に状況を打開できるパスが出せるかという点では少し物足りないものがあつたし、対戦相手に1本のパスで局面を変えられるような選手も少なかったと感じています。

福井 質が伴った技術をもっている選手はまだ少ないと思う。われわれ指導者が技術を含めた基本の質をもっとレベルアップさせなければならぬと思います。その結果、決定的な局面をチャンスとして生かせる創造性あるパスが生まれてくると思います。

上野山 キックは反復で単調な練習です。選手たちのモチベーションはどうですか。

福井 反復は単調かもしれないが、それをどうやらせるのかは指導者の質。モチベーションを考慮し、あえてけり込ませるとい指導者側のこだわりも大事なのは。また、人工芝によるグラウンド環境整備に伴い、きちんとけらなくてもボールは転がる。そういう意味でも、ただけり込ませるだけでは質が伴ってきません。

失敗を恐れず挑戦してほしい

上野山 では、ボールのコントロールについては。

森山 ボールの置きどころ、間の取り方、姿勢の正しい選手は慌てず落ち着いて的確な判断ができていました。高校1年のときに体が小さく、これは厳しいかなと思っても、最後は技術の高い選手が信頼できます。



2006年決勝(広島対F東京)



上野山信行氏

福井 ボールを止める技術は上がってきていると思います。しかし、プレーに即したボールコントロールをしているかは疑問です。

上野山 止めるのはうまくなっていますね。ただ、意図があるかないか。

山下 中には、まず止めてという



感じの選手もいましたね。次にどうする、というのが見えない。子供のころからゲームを楽しむ環境が整っていないのも原因の一つだと思います。

上野山 ヘディングについてはいかがでしょう。

うか。

福井 日本全体でヘディングの練習が少ないと思います。やればやるほどよくなりますよ。もっと質と量を追求しなければいけないのかな。3年後、5年後と見たときに、今からきちんとやっていかないとサッカーの質という点で遅れをとってしまう。高い技術を当たり前に行えるかどうかで、サッカーの質そのものが変わってしまうから。うちのチームは、センターバックの2人が特にヘディングに自信を持っています。

森山 決勝では、空中戦で何度もはね返されました。

山下 練習はしないとはいませんが、ゲームの中でミスを恐れず挑戦していいですね。

上野山 戦術に関しては、大会を振り返っていかがでしょう。

福井 大会では、ボール保持者の状況によりどうポジションを取るかということについてはかなりうるさく言いました。より高いレベルに行ったときに一つのベースになると思い、コーチ陣とともに真剣に取り組みました。

森山 攻撃も守備もそうだが、次のプレーを予測し、感じ取れる賢い選手を多くしたい。指導者にもイメージがないと、働きかけができません。

福井 個人、グループ戦術に関して、魅力ある「個」はたくさんいると思います。それに指導者がどれだけかかわり、選手たちを変化、成長させていくか。サポートという意味での指導者のかかわり方も、もっともっとJリーグのコーチは考えていかなければと思います。

山下 今回は予選リーグの組み分けをレベル別にしました。個の戦術、技術は、上のレベルになるほどいいものをもっていました。今出ている

ような話をジュニア、ジュニアユース年代へどのように落とし込むか。この大会を経験した監督の皆さんにいろいろと提言してもらい、指導者養成にもつなげていきたいと思います。

上野山 では続いて、フィジカル面についてはどうでしょう。決勝を見ていると、走りの質と量はすばらしいと思った。特別に練習をしていますか。

福井 特別にはしていませんが、フィジカル的な要素が濃いチームの印象はあるかもしれません。



山下則之氏

せん。しかし、自体重を活用した体幹トレーニングは行っています。

東京は緑が少なくなっているし、特に東京の子は意図的に刺激を与えてフィジカルをやっていかないと。
森山 いわゆる田舎でさえ、外で遊んだら危ないとか親が危険な場所へ行かせないとか、たくましく鍛えられている子供は少なくなってきたと感じます。サッカーをやっている子供たちは鍛えられているほうですよ。

アカデミーの活動を重点的に

上野山 筋力トレーニングはどうしていますか。

森山 頻度は多くないが、全体でやるにはやります。必要ではあると思いますね。

福井 フリーウエイトを活用したトレーニングは不足しているかもしれま

せん。しかし、自体重を活用した体幹トレーニングは行っています。

森山 やっぱりボールを使いたい、うまくしてあげたい、というのがありますね。

山下 ボールを扱いながら身につけさせていこうという考えかたは良いのでは。器具を使うのは、不足を補う程度ですかね。

上野山 メンタリティーは、負けたくない、よくなりたいという気持ちはもっているようです。

森山 チームに入ってきたときはおとなしい選手も多いのですが、指導者が粘り強く働きかけを続けていけば、絶対に変わってくると思います。

上野山 Jリーグはフェアプレーを提唱していますが、指導はどのように。選手たちはそういう意識をもってプレーしているのでしょうか。

福井 レフェリーや相手を尊重して、理解を深めることによって選手たちにサッカーを楽しんでもらいたい。レフェリングも、その年代に応じて話し方、情報の発信などと思うので、それをわれわれやJリーグが意識しなければならないと思います。

山下 昨年、U-15 Jリーグ選抜のブラジル遠征で感じたのは、ブラジルの選手は不満も言うけれど、試合の中でレフェリーとコミュニケーションをよく取っていましたね。Jリーグの技術委員会もレフェリーの方にも入ってもらい、選手育成について意見を交換しています。

森山 大会の決勝、準決勝はストレスがなかった。レフェリーが接触プレーをしっかり見てくれて、不必要にプレーを止めることもありませんでした。



優勝を飾った広島

上野山 大会形式、運営についての希望などは、今後への意見として。

福井 グループによって決勝トーナメント進出のチーム数が異なるのはいいのですが、息の抜けない予選リーグでした。厳

しいグループでしたが、合言葉は「3点まではだいじょうぶ」でした。最後まで諦めない姿勢が強くなりましたね。

森山 厳しいグループで、毎試合が決勝のようでした。緊張の中でプレーすることにより、このエリアでミスをしてはいけない、この状況ではリスクを冒してでも攻め上らなければならないなど判断力もついてきました。選手にはプラスになっているという部分と、もう少し余裕があれば選手起用や戦術変更のチャレンジができたという思いがあります。

上野山 常にきつ抗するのも大事だけど、何かチャレンジできるリーグ戦というのも必要というわけですね。

山下 今年のJユースカップは、監督の意図したことがその大会の中で可能となるように、皆さんの意見を参考にしながらより良い仕組みに改善していきたいと思っています。さらに、将来はより長期間のリーグ戦を構築していきたいと考えています。

森山 今回のグループ分けは非常に良かった部分もあります。予選リーグでレベルの高い試合を6回もできて、選手たちの大きな成長につながったと思います。

上野山 では、最後に山下さん、一言お願いします。

山下 2007年はJリーグ・アカデミーの活動を重点的に盛り上げていこうというのがチェアマン以下、Jリーグ全体の方針です。それには、われわれだけでなく皆さんの協力が不可欠です。31クラブのみんなで意見交換しながら、盛り上げていきたいと思っています。



福井 哲氏

のべ176名が実力をアピール 第5回合同トライアウト

次年度に向けた契約を更新できなかった選手が移籍先を求めて実戦でアピールする合同トライアウト。JリーグとJリーグ選手協会(JPFA)の共催によるこの催しは「現役としてプレーを続けたいと願う選手にとっては、不可欠の場」(Jリーグキャリアサポートセンターの八田茂リーダー)としてすっかり定着し、今回で5年目を迎えた。

今オフの第1回は2006年12月12日に大阪長居第2陸上競技場、第2回は07年1月9日にフクダ電子アリーナで実施された。第1回には最多記録となる107名が参加。Jリーグ、JFL(日本フットボールリーグ)、地域リーグのクラブをはじめアメリカのMLS(メジャーリーグサッカー)の代理人やデンマーク1部リーグクラブの監督なども含めて181名の強化担当者、スカウトなどが鋭い視線を送る中、参加者は懸命のプレー

(25分の試合を6回)をアピールした。第2回の参加者はそれぞれ、69名、112名(試合は30分を4回)だった。

合同トライアウトへの参加資格は、契約未更改者のほか、過去にJリーグに所属したことがあり、JFLや地域リーグのクラブなどに所属する選手たち。ほとんどの選手が30分ほどの短い時間でアピールしなければならず、「少しでも可能性がある限り」(合同トライアウト後、アルビレックス新潟からシンガポールのアルビレックス新潟・Sへの移籍が決まった岡山哲也)と必死のプレーをみせた。

シーズンオフまでに、185名が登録抹消となったが、そのうち52名がJリーグクラブへの移籍が決定、残る133名のうち、68名がJFLや地域リーグのクラブでプレーを続ける。



—昨年のロッソ熊本、昨年のFC岐阜のように、10名以上の選手を一度に獲得するクラブはなかった。

また、20名がクラブの育成部門やフロントなどスタッフに転進。進学復学予定が4名、サッカー系と非サッカー系を合わせた就職が9名、新たな機会を求めて準備する者が32名となった。(2月26日現在の集計)。

インターンシップで さまざまな職業を体験

Jリーグ キャリアサポートセンター(CSC)が支援するインターンシップ(職場体験)が、シーズンオフの12月下旬から1月中旬にかけて実施された。Jリーグの選手がさまざまな職場に身を置き、実地で業務を体験しようという試みは、今回が4年目。2004年1月の第1回実施時には5名だった参加者も、13名、20名と回を追うごとに増え、今回は27名を数えた(2件に参加した選手が3名あり、件数は30件)。

現役選手とあって、サッカー指導やサッカー解説などスポーツに関連したものが15件と半数を占めたが、職種は参加者の希望によるため、多岐にわたる。

北海道千歳市の社台ファームで競走馬育成に携わった柏レイソルの岡山一成は、寝わら上げや手入れなど3日間の厩舎(きゅうしゃ)作業を体験した。大好きだった競走馬と対面し、感激もひとしおだったという。サガン鳥栖の宮原裕司、鐵戸裕史の両選手は、「あまくカラフルリズム会」の協力を得て漁業を体験。熊本県天草市で漁船に乗り込み、定置網漁などに取り組んだ。徳島ヴォルティスの島津虎史は、かばん職人の野谷久仁子さん指導の下、東京都台東区でウエストポーチを製作した。

インターンシップに参加するにはまず、11月末に翌シーズンに向けての契約を結び(選手継続が確定していなければならない)、その上でエントリーシートに希望の業種などを記入してCSCに提出する。これを受けたCSCのスタッフが、一人ひとりと相談しながら仕事内容、日程、300社ほどある



フーマショップで体験する橋本早斗(大宮アルディージャ)

受け入れ先を調整し、実施への道をつける。実際の体験を終えると、参加者には終了レポートの提出が義務づけられている。

Jリーガーもいずれは、第一線を退くときがやってくる。その後も彼らが自立した社会生活を営んでいけるよう、そのキャリアを支援するのがCSC。インターンシップはセカンドキャリアへの啓蒙を図る上で大きな役割を果たしており、参加者数の増加がその成果を表している。



ウエストポーチを製作中の島津虎史(徳島ヴォルティス)

新人研修会開催

Jリーガーとしての基本を身につける

JリーグとJリーグ選手協会の共催による2007Jリーグ新人研修会が2月1日から3日まで福島県のJヴィレッジで開かれ、138人が参加した。昨季途中でオランダのクラブからFC東京に移籍した平山相太も参加し、「初心に帰るいいチャンス」と熱心に講義に聞き入った。

選手たちは期間中、JリーグやJリーグ選手協会、Jリーグ・アカデミーについての説明を受けたほか、それぞれの分野の専門家からフィジカル・コンディショニング、メンタルマネジメント、ドーピング・コントロール、メディア対応、危機管理、税務知識など、Jリーガーとして身につけておくべき基本事項の講義を受けた。2日目には、ルー

ルテストが実施された。今回は新たな試みとして、映像を用いてオフサイドやファウル判定基準を回答する形式が採用された。

3日目には、JリーグOBの小島伸幸氏がプロ選手としての心構えなどを話し、選手たちにエールを送った。

3日間の研修を終えた選手たちはさすがに安堵の表情を浮かべながら、「プロとしてやっていく上で大事なことを教わった」(サンフレッチェ広島の木本陽介)、「確定申告や税金など、自分でやったことがなかったので、いい勉強になった」(清水エスパルスの原一樹)と貴重な体験を振り返った。また、「ここにいることで、プロを実感している」(名古屋グランパスエイトの巻佑樹)と、新たなキャリアのスタートを意識したようだ。



© J.LEAGUE PHOTOS

2007年度収支予算について

2月20日のリーグ理事会・総会で、2007年度(平成19年度)のJリーグ収支予算が承認された。公益法人会計基準の変更にもない、本年度から様式および科目表示が変更となった。予算額は、一般会計と特別会計を合算した総括表で発表。

科目	H19予算 (A)	H18見込額 (B)	差額 (A-B)
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入	0	0	0
②入会金収入	0	60	▲60
③会費収入	987	981	6
④事業収入	11,014	10,887	127
協賛金収入	4,050	4,339	▲290
Jリーグ主管試合入場料収入	286	332	▲46
放送権料収入	5,262	4,902	360
商品化権料収入	537	592	▲55
その他	880	722	158
事業活動収入計	12,001	11,928	73
2. 事業活動収支			
①事業費支出	9,929	10,023	▲93
リーグ運営経費	2,752	2,859	▲106
クラブへの配分金	6,824	6,898	▲74
その他	353	266	87
②管理費支出	1,982	1,754	228
事業活動支出計	11,912	11,777	136
事業活動収支差額	89	151	▲63
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入	0	269	▲269
2. 投資活動支出	19	19	0
投資活動収支差額	▲19	250	▲269
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入計	30	150	▲120
2. 財務活動支出計	0	140	▲140
財務活動収支差額	30	10	20
IV 予備費支出	100	0	100
当期収支差額	1	411	▲411
前期繰越収支差額	944	534	410
次期繰越収支差額	945	944	0

フェアプレー賞(高円宮杯)の受賞基準を変更

Jリーグは、2007年シーズンからフェアプレー賞(高円宮杯)の受賞基準を変更することを決定した。

現在の競技規則では、過去と比較し、警告や退場処分となる基準が厳格化されてきている。賞創設当初の理念を失わず時代に即した受賞基準に変更することで、達成可能な目標となり、フェアプレー賞(高円宮杯)獲得によりクラブの価値をより高めることを目的とする。

■ 受賞基準変更の考え方

- (1) 受賞対象反則ポイントを従来の25ポイント以下から34ポイント以下(1試合1ポイント)に変更する。
- (2) 試合において、警告および退場(退席を含む)がなかったチームに対し、1試合につき反則ポイントを3ポイント減じる。

2007年JリーグマッチコミッショナーJリーグ担当審判員決定

2007年Jリーグマッチコミッショナーおよび担当審判員決定。

〈マッチコミッショナー〉

● J1-27名

● J2-20名

〈担当審判員〉

● Jリーグ主審-34名

(J1主審-19名/J2主審-15名)

● Jリーグ副審-61名

(J1副審-36名/J2副審-25名)

※ J1主審が J2の主審を担当する場合がある。

Jリーグ準加盟審査結果について

Jリーグは2月20日の理事会で、栃木SC、ガイナレ鳥取、FC岐阜およびFCペラーダ福島の4クラブのJリーグ準加盟申請について審議し、栃木SC、ガイナレ鳥取のJリーグ準加盟を承認した。FC岐阜については継続審議となった。

栃木SC	
法人名	株式会社栃木サッカークラブ 代表取締役 新井 賢太郎 設立:2006年6月15日
所在地	栃木県宇都宮市野高谷町564-1
所属リーグ	JFL(8年目)
ホームタウン	宇都宮市
ホームスタジアム	栃木県グリーンスタジアム

ガイナレ鳥取	
法人名	株式会社SC鳥取 代表取締役 塚野 真樹 設立:2006年12月28日
所在地	鳥取県米子市法勝寺町70
所属リーグ	JFL(7年目)
ホームタウン	鳥取県
ホームスタジアム	鳥取市営サッカー場バードスタジアム

Jリーグヤマザキナビスコカップ フジテレビと放送権契約締結

Jリーグは、1月23日の理事会で、JリーグおよびJリーグ映像株式会社と株式会社フジテレビジョンとの『Jリーグヤマザキナビスコカップ』のテレビ放送権契約を承認した。契約期間は、2007年から2009年の3シーズン。

■ 契約先

株式会社フジテレビジョン

■ 契約期間

2007～09年シーズン(3シーズン)

■ 契約内容

地上波全国、BS波、CS波、ケーブルテレビ放送権(サブライセンス権含む)、インターネット及びモバイル端末への動画配信権(自動公衆送信権)の独占権

FIFAが使用する世界標準の レフェリーウェアを着用!

Jリーグは、「Jリーグオフィシャルレフェリーエクイップメントパートナー」のアディダス ジャパン株式会社からの提供を受け、FIFAワールドカップ™をはじめとするFIFAの主催試合で採用されているレフェリーウェアを2007シーズンから新たに採用する。

これは、Jリーグとアディダス ジャパン株式会社が締結合意した審判用品の提供に関するパートナーシップ契約に基づくもので、ストッキングを含むウェア及びシューズはすべてアディダスブランドを着用する。カラーは、黒、赤、水色、黄色の4色。

裁判員制度広報啓発活動へ協力

Jリーグは、国民が刑事裁判に参加する「裁判員制度」の広報啓発活動に協力する。裁判員制度は、国民が刑事裁判に参加することによって裁判を身近に分かりやすいものにするなどを目的として2004年に定められ、2009年5月までに開始される。

■ 名称 裁判員制度広報啓発活動

■ 主催 法務省(検察庁)、最高裁判所、日本弁護士連合会

■ 協力内容 公式試合における広報映像の上映、場内アナウンス

法務省人権啓発活動に協力 「Jリーグ百年構想・子どもの人権プログラム」

Jリーグは、法務省の人権擁護機関が展開する子どもを対象とした人権啓発活動に協力する。Jリーグ百年構想の理念に賛同をいただいた同活動は「Jリーグ百年構想・子どもの人権プログラム」として全国で展開される。

■ 主催 法務省人権擁護局

■ 協力内容

- 「人権週間」等の各種人権啓発行事への選手への派遣
- 啓発ポスター、啓発物品、啓発広報映像の製作等
- スタジアムにおける各種啓発活動
- ホームタウンの法務局との連携ほか



実行委員選任

Jリーグは1月23日の理事会で、実行委員変更を承認した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
大宮アルディージャ	中村 博 前NTTスポーツコミュニティ(株) 代表取締役社長	渡邊 誠吾(わたなべ せいご) NTTスポーツコミュニティ(株) 代表取締役社長

チーム・マイナス6%運動へ協力

Jリーグは、本年度も環境省が推進する地球温暖化防止に向けた「チーム・マイナス6%運動」に協力する。2005年に発効した「京都議定書」で日本が世界に対して約束した「温室効果ガス6%削減」を達成するため、2007年1月現在で9800団体、104万人がチーム員宣言をしている。

■ 協力内容

- ① チーム・マイナス6%が制作する「健全な危機意識醸成のための映像」への選手出演
- ② スタジアムでの映像放映
- ③ 開幕節の観戦者に対するチーム・マイナス6%の参加呼びかけ

「キャノンカップ ジュニアサッカー 2007」を後援

Jリーグは、「キャノンカップ ジュニアサッカー2007」(主催:キャノンカップジュニアサッカー実行委員会ほか)を後援する。本大会は、少年・少女のサッカーの普及・育成および国際交流・国際親善を目的とし、5～6月の1次・2次選考後、7～8月にアメリカ・カリフォルニアへの海外遠征を行う。216チームが参加予定。

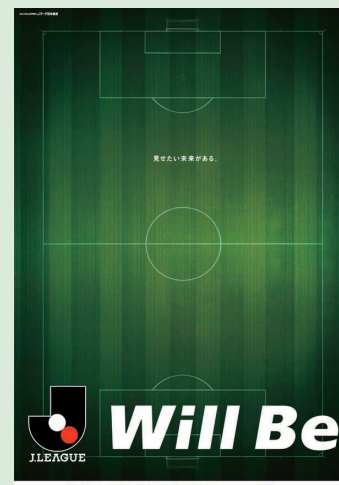
「第11回北九州市長杯争奪 北九州招待サッカー大会」を後援

Jリーグは昨年に続き、「第11回北九州市長杯争奪 北九州招待サッカー大会(主催:福岡県サッカー協会ほか)」を後援する。アビスパ福岡、ニューウェーブ北九州が参加し、北九州市におけるサッカー振興と競技力の向上を図ることを目的に3月17日(土)に開催される。

「Will Be」

Jリーグは今季、新たなキャッチフレーズとして「Will Be」を発表した。「Will Be」は「なる、実現する」、「want to be」(なりたい、やりたい)ではなく、もっと強い意思 (Will)を表す。「チャンピオンになる」、「ゴールを決める」、「J1昇格を信じる」。

選手、クラブ、サポーター。立場や目的によって、夢や目標は異なるが、そこへ到達しようという人々やグループ、組織の個性を、強い意思「Will」で結びつけ、魅力あるリーグを実現する。



城彰二氏がJリーグ百年構想メッセージに

Jリーグでは、2006年シーズンでプロを引退した城彰二氏(31歳)を「Jリーグ百年構想メッセージ」に任命した。

城氏は、Jリーグ各クラブでのプレー、各世代の日本代表、海外でのプレーの経験を経て、昨シーズンは横浜FCでキャプテンとしてJ2優勝・J1昇格に大きく貢献した。今後は、自身の経験を生かし、同じく「Jリーグ百年構想メッセージ」のMr.ピッチとともに、Jリーグの理念「百年構想」を全国に伝える活動に協力いただく。

2007年は、「Jリーグ百年構想」ポスターおよびプロモーションビデオに出演するほか、Jリーグが提唱する校庭の芝生化推進活動、各種理念推進活動にご協力いただく。

【城 彰二】

1975年6月17日生 北海道室蘭市出身
身長179cm 体重72kg

【サッカー歴】

1994年～1996年
1997年～1998年
2000年～
2000年7月～01年
2002年～03年
2003年～06年

ジェフユナイテッド市原
横浜マリノス
レアル・バリャドリード(スペイン)
横浜 F・マリノス
ヴィッセル神戸
横浜FC加入。2004年からキャプテン。
2006年 J 1 昇格 & J 2 優勝に貢献。
同年現役を引退
36試合出場7得点
J1=230試合95得点、J2=151試合44得点
15試合2得点

国際Aマッチ
Jリーグ

リーガ・エスパニョーラ

2007年「Jリーグ百年構想」プロモーション 『学校訪問』編

2007年「Jリーグ百年構想」のプロモーションビジュアル第1弾は『学校訪問』編。全国のJリーグ各クラブは、1993年のJリーグ開幕時から、選手、クラブの社会貢献活動の一環として、ホームタウン地域の小中学校を訪問したり、地域の学校と共同でスポーツマネジメント等の講座を開くなど、地域の教育機関と連携した社会貢献活動を積極的に続けている。

2007年Jリーグ百年構想ビジュアル第1弾では、今年新たに「Jリーグ百年構想メッセージ」に任命された城彰二氏に登場いただき、Jリーグ所属選手の学校訪問の様子を表現した。ポスターのほか雑誌広告、スタジアム大型映像での動画CMなどで露出の予定。

「夢を育てるサポーター、続けています」
たとえば、Jリーグの選手やOBが学校を訪問して
子供達と夢について語り合ったり、一緒に運動をしたり、給食を食べたり。
たとえば、チームの練習に小中学生の取材を受け入れたり、
大学と共同でスポーツマネジメントなどの講座を開いたり。
Jリーグ各クラブは、教育現場での社会貢献活動を
様々な形で続けています。
なるほど、なるほど、と納得する
Mr.ピッチなのでした。

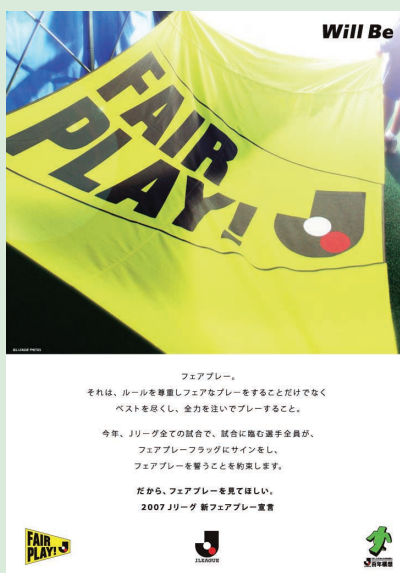


Jリーグ百年構想経過報告「学校訪問」編

© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグフェアプレーキャンペーン 全選手がフェアプレーフラッグにサイン

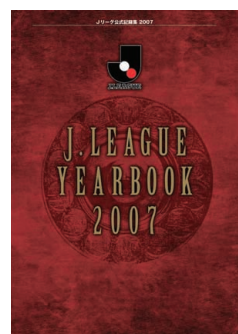
Jリーグは、2007年シーズンから、全試合のキックオフ前に、フェアプレーを誓う証としてフェアプレーフラッグに両チームの選手全員がサインをすることを決定した。これまで主にスタジアムアナウンスやポスター等でスタジアム観戦者へのフェアプレーへの理解を深めてきたが、今年度からは試合に出る全選手がフラッグにサインをしてフェアプレーの実践を約束する。



世界で一番、幸せなスタジアムをつくろうよ!

スタジアムでの試合観戦を、より安全に、快適なものにするために、Jリーグは今年も「観戦マナー&ルール」を掲げ、多くのファン・サポーターに理解と協力を呼びかける。

Jリーグ・Jクラブはスタジアム環境作りに取り組み、今年も「花火、爆竹、発炎筒、ガスホーンの持ち込み」や「ビン・カン類の持ち込み」、「フィールドへのモノの投げ込み」、「フィールドへの飛び降り」という4つの禁止事項を“ピクトグラム“(イラストによる標識)に表し、ポスターとともに、スタジアムの電光掲示板・大型映像、Jリーグ・Jクラブ広報誌などで訴求していく。



J. LEAGUE YEARBOOK 2007
Jの歴史を1冊に凝縮。06シーズンまでの全記録を網羅したレコードブック。全31クラブデータ/ゲームテーブル2006/過去の大会/通算記録etc
定価:2,000円(本体1,905円)



J. LEAGUE OFFICIAL FAN'S GUIDE 2007

ファン必携! J1・J2、全31クラブのオールカラー公式ガイド
鬼武チエアマンインタビュー/2006プレイバック/全選手写真名鑑等
定価:1,500円(本体1,429円)

発行：(社)日本プロサッカーリーグ
発売：(株)コナミデジタルエンタテインメント
問い合わせ：コナミデジタルエンタテインメント・ブックセンター
TEL 03-5775-1581

Jリーグ公式HPリニューアル

Jリーグは、公式ホームページをリニューアルした。「Jリーグ百年構想」をわかりやすく訴求するために、「百年構想タウン」を展開するほか、試合毎のプレビュー記事、試合速報などが充実する。



写真提供：© J.LEAGUE PHOTOS



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。